

# 月例経済報告等に関する関係閣僚会議資料

平成19年6月18日  
内閣府

## <日本経済の基調判断>

景気は、生産の一部に弱さがみられるものの、回復している。

企業収益は改善。  
設備投資は増加。

雇用情勢は、  
厳しさが残るもの  
の、改善に広がり  
がみられる。

個人消費は、持  
ち直している。

輸出は、横ばい。  
生産は、横ばい。

(先行き)

- ・先行きについては、企業部門の好調さが持続し、これが家計部門へ波及し国内民間需  
要に支えられた景気回復が続くと見込まれる。
- ・一方、原油価格の動向が内外経済に与える影響等には留意する必要がある。

## <政策の基本的態度>

政府は、「美しい国」づくりに向けて、経済のオープン化を促進する中で成長力を強化し、21世紀型行財政システムを構築するとともに、次の世代に自信をもって引き継げる持続的で安心できる社会を実現することを目指す「基本方針2007」(仮称)を取りまとめる。

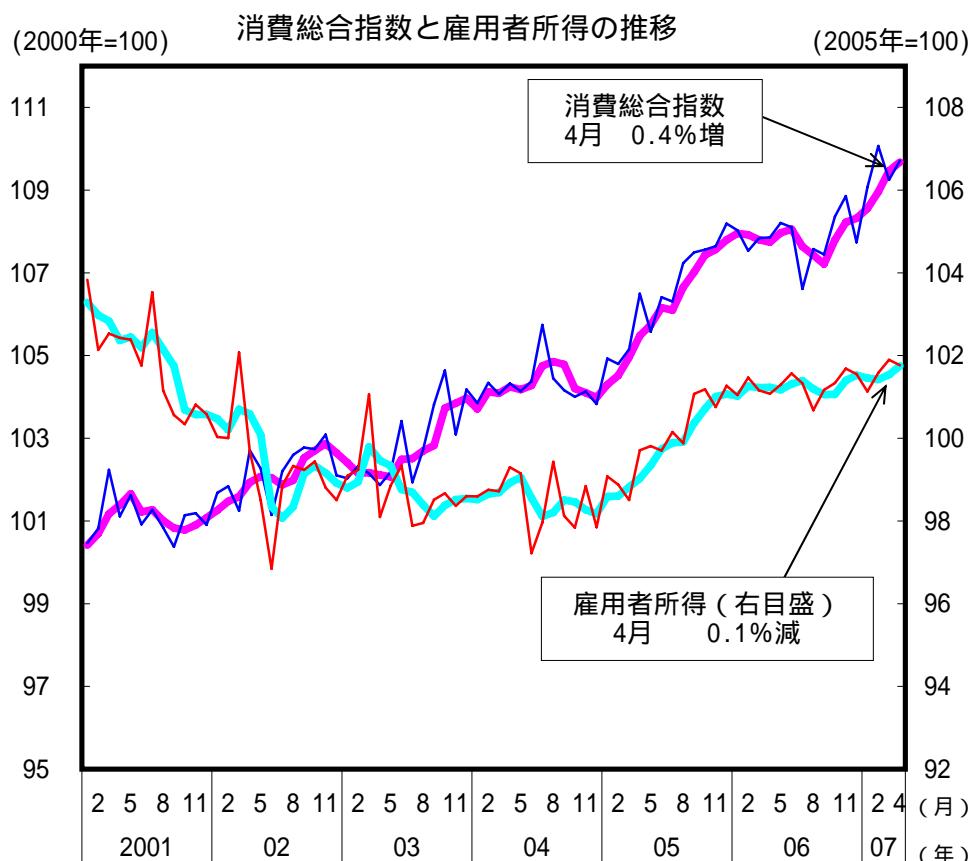
政府・日本銀行は、マクロ経済運営に関する基本的視点を共有し、物価の安定基調を確実なものとするとともに、物価安定の下での民間主導の持続的な成長を図るため、一体となった取組を行う。

# 今月の説明の主な内容

- |        |                 |
|--------|-----------------|
| 1 家計部門 | – 消費は持ち直している    |
| 2 家計部門 | – 雇用者数は増加している   |
| 3 企業部門 | – 生産は横ばいで推移     |
| 4 企業部門 | – 収益は改善、設備投資は増加 |
| 5 地域経済 | – 地域における雇用の現場の声 |
| 6 海外経済 | – 2007年世界経済の見通し |

## 家計部門の動向

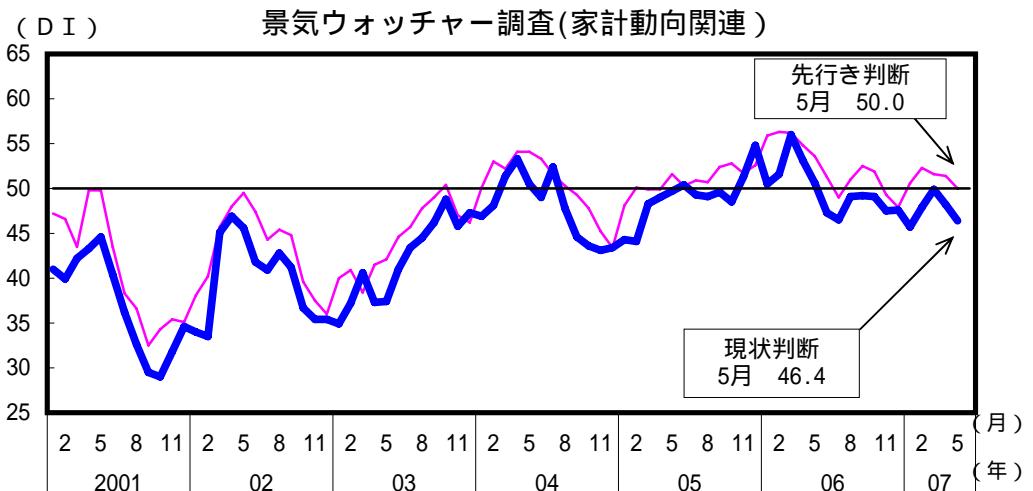
個人消費は、持ち直している  
所得は、おおむね横ばいで推移している



(備考) 1. 消費総合指標と雇用者所得(賃金×雇用者数)は、内閣府(経済財政分析担当)で作成。季節調整値。太線は後方3ヶ月移動平均。

2. 景気ウォッチャー調査の図表は、内閣府「景気ウォッチャー調査」により作成。なお、01年1月~7月の回答者は1500人、01年8月以降は2050人。

マインドは、おおむね横ばいで推移している



景気ウォッチャーのコメント(5月)より  
( :やや良くなっている、 :変わらない、 :やや悪くなっている)

(先行き)

: 暑さが予想されており、エアコンを中心に良くなる。  
(東北: 家電)

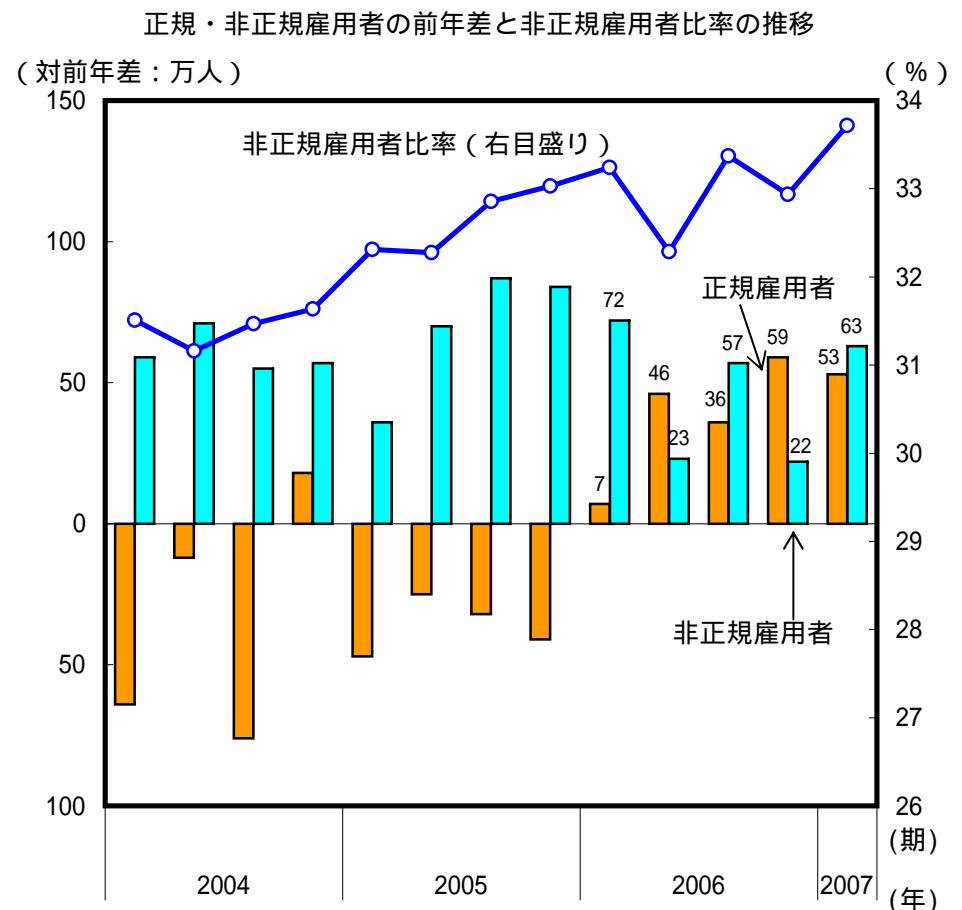
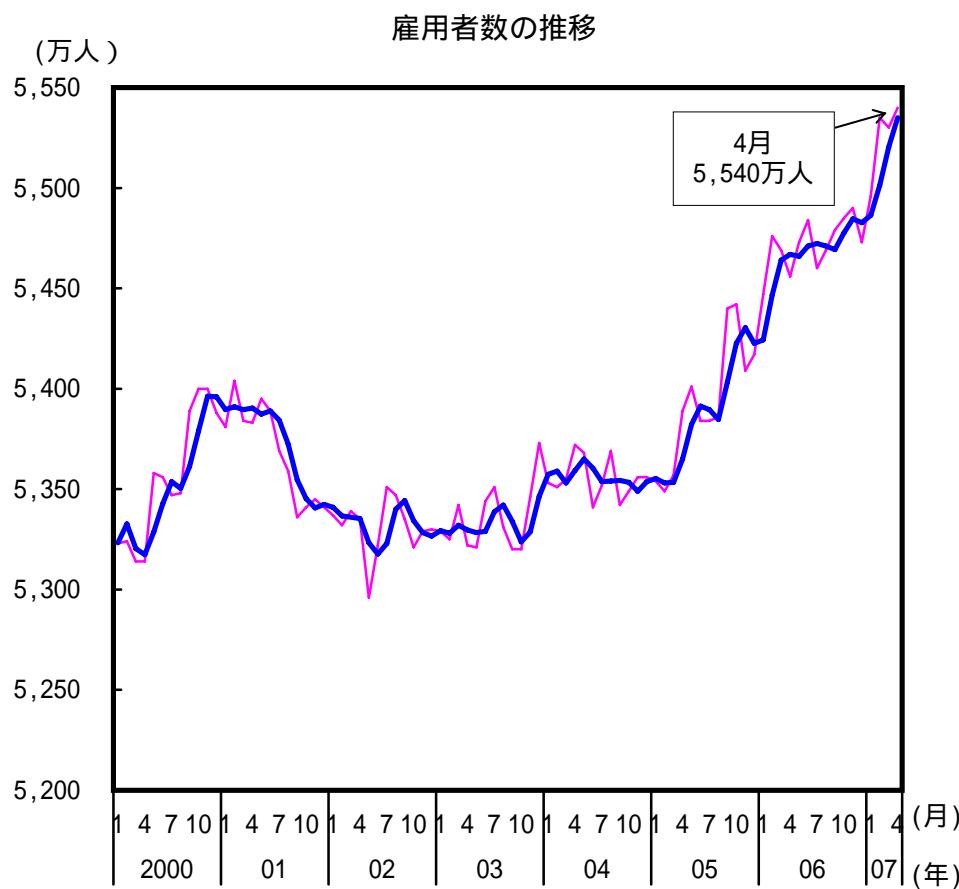
: 6月から一部食料品の値上がりが始まる。石油製品の値上がりも始まってる。好調だった買い上げ点数に陰りがみられるものの、全体的には変わらない。(中国: スーパー)

: 猛暑になれば売上は増加するものの、商品の手当てが不十分なために伸びは限定的。(近畿: 衣料品専門店)

## 家計部門の動向

雇用者数は既往最高の水準

正規雇用者数は5四半期連続で増加  
(07年一期の正規雇用者数3,393万人)

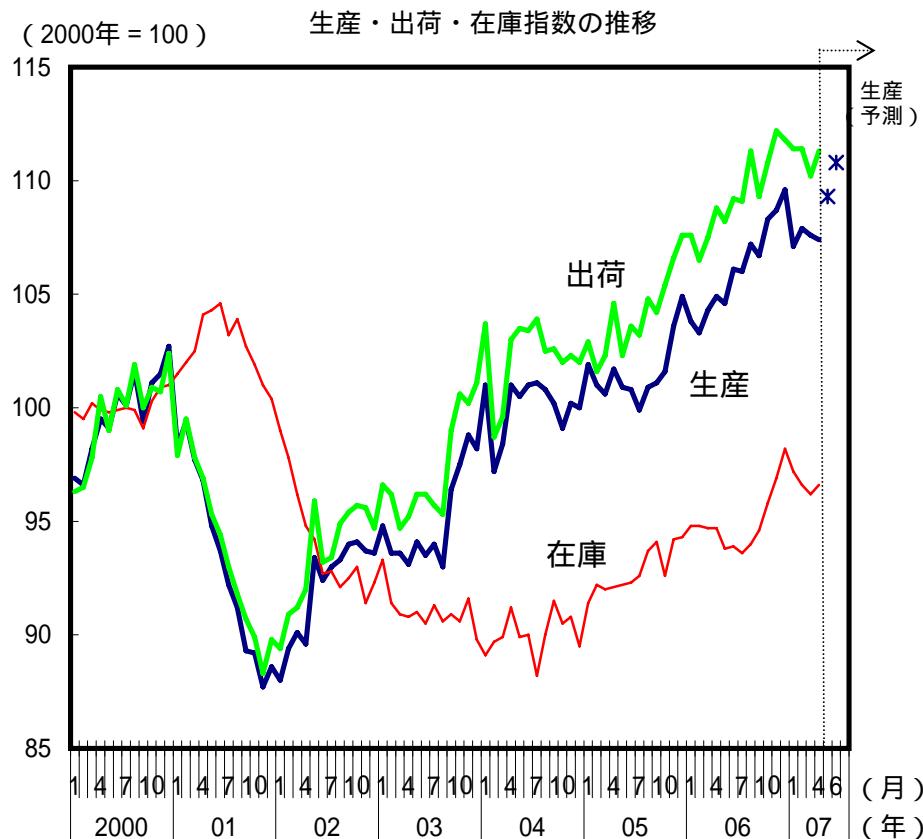


(備考) 1. 総務省「労働力調査」により作成。  
2. 季節調整値。  
3. 太線は後方3カ月移動平均。

(備考) 総務省「労働力調査(詳細結果)」により作成。

## 企業部門の動向

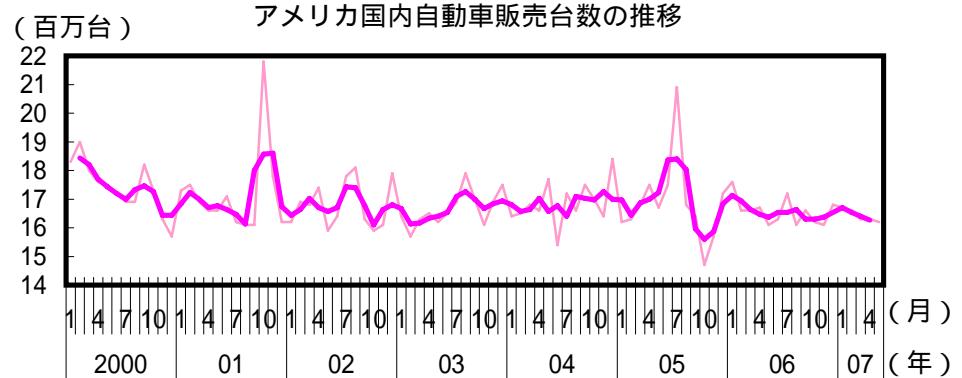
### 鉱工業生産は横ばい



### アメリカ向け輸出は年明け以降減少傾向

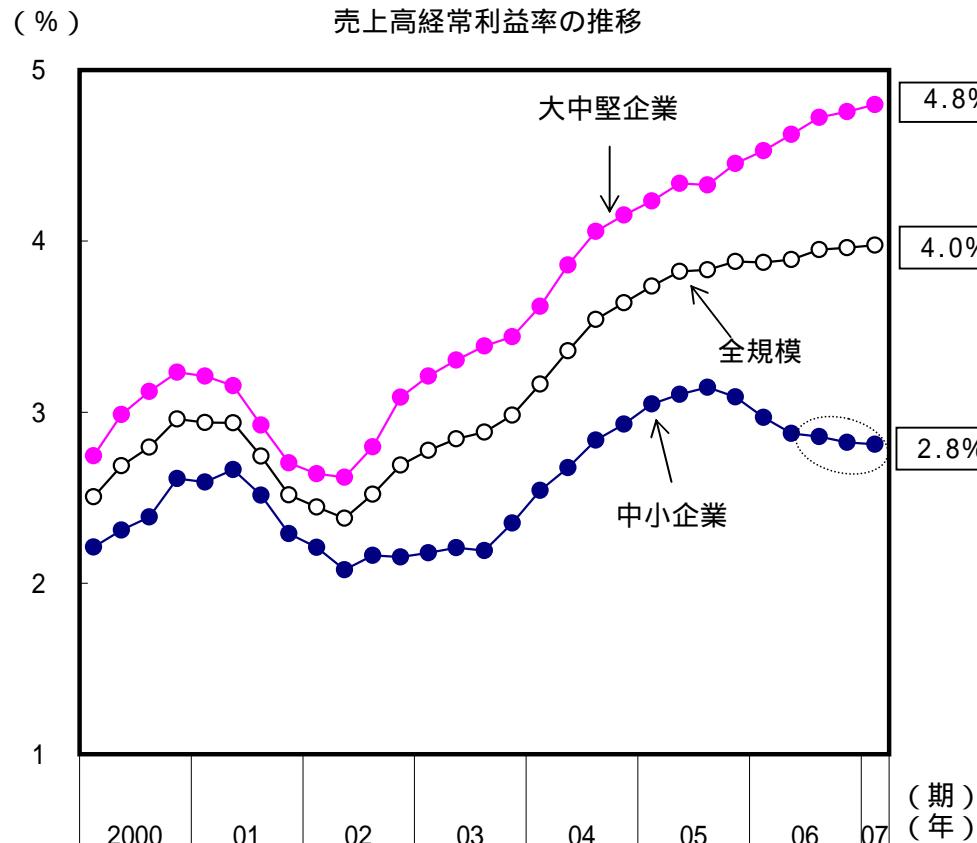


### アメリカ国内自動車販売台数はおおむね横ばい

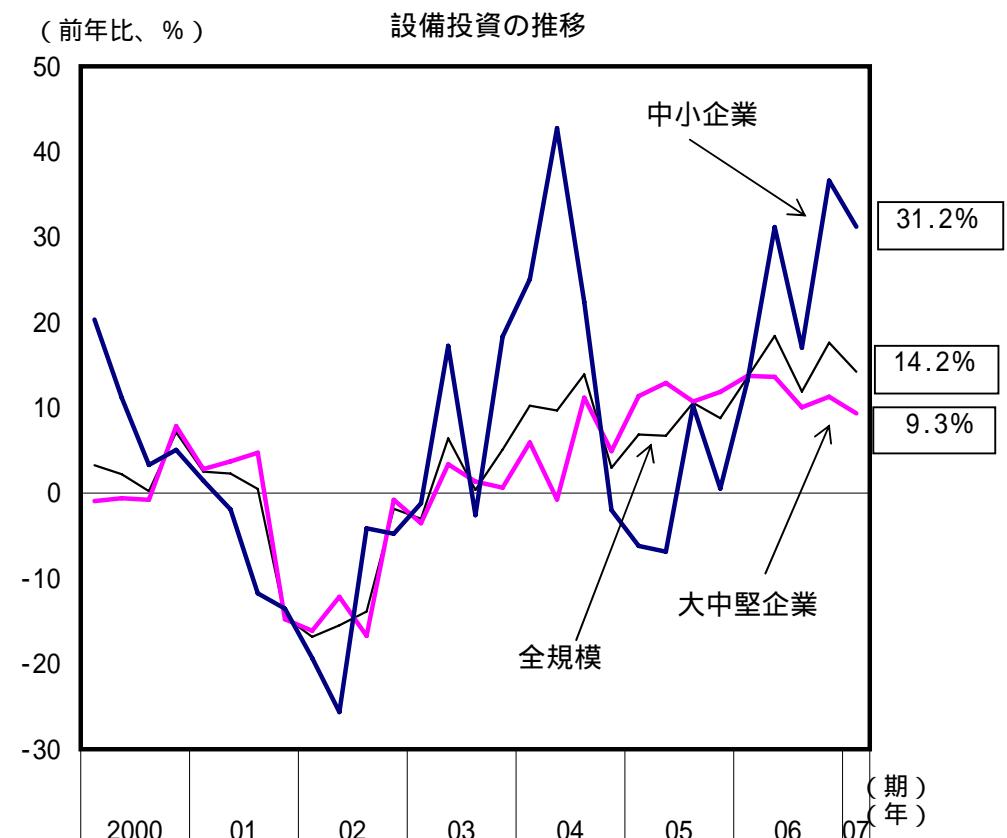


## 企業部門の動向

売上高経常利益率は高水準で推移している  
- ただし、中小企業では改善が一服している -



設備投資は増加している



(備考) 1. 財務省「法人企業統計季報」。

2. 大中堅企業は資本金 1 億円以上、中小企業は資本金 1 千万以上 ~ 1 億円未満。

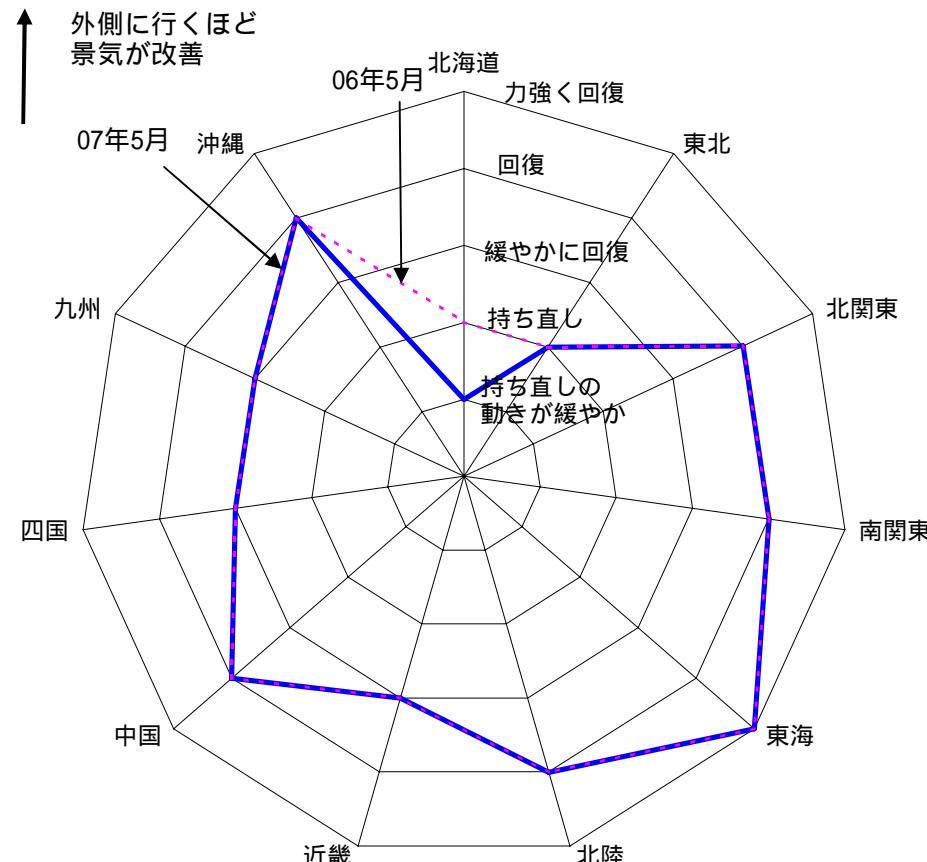
3. 後方 4 四半期移動平均。

(備考) 1. 財務省「法人企業統計季報」。

2. 大中堅企業は資本金 1 億円以上、中小企業は資本金 1 千万以上 ~ 1 億円未満。

# 地域経済の動向

## 地域の景況判断（07年5月内閣府地域経済動向）



(備考) 1. 各地域の鉱工業生産、消費、雇用等の指標及び各種の情報を基に内閣府が四半期に1度各地域の景気動向を取りまとめたもの。07年5月は、主に07年1-3月期の指標で判断。

2. 右側は、内閣府「景気ウォッチャー調査」(5月)より作成。

## 雇用の現場の声

- 景気ウォッチャーのコメント (5月) より -

### <やや良くなっている>

人材需要が増加傾向。事務系、販売職の派遣需要もあう盛、中途のニーズも高い。（北海道：人材派遣会社）

社会全般に「直接雇用」の風が吹き始めている。（東北：人材派遣会社）

サービス業、情報関連業、製造業等の中途採用数が増加傾向。（四国：民間職業紹介機関）

### <変わらない>

未経験者や経験年数の浅い者でも可とする需要は少なくなり、即戦力希望が多くなっている。（東海：人材派遣会社）

銀行や生損保の事務職について、どの媒体に求人を出しても応募が集まらなくなっている。（近畿：新聞社）

求職者が減っている。働きたい人は働いている平常の状態という感じ。（九州：職業安定所）

### <やや悪くなっている>

企業の求人募集が一段落した模様で、求人数はやや減少。（東北：新聞社）

予想外に採用が好調な企業も多く、ある程度人員を充足できた結果、やや募集を控えた傾向。（南関東：新聞社）

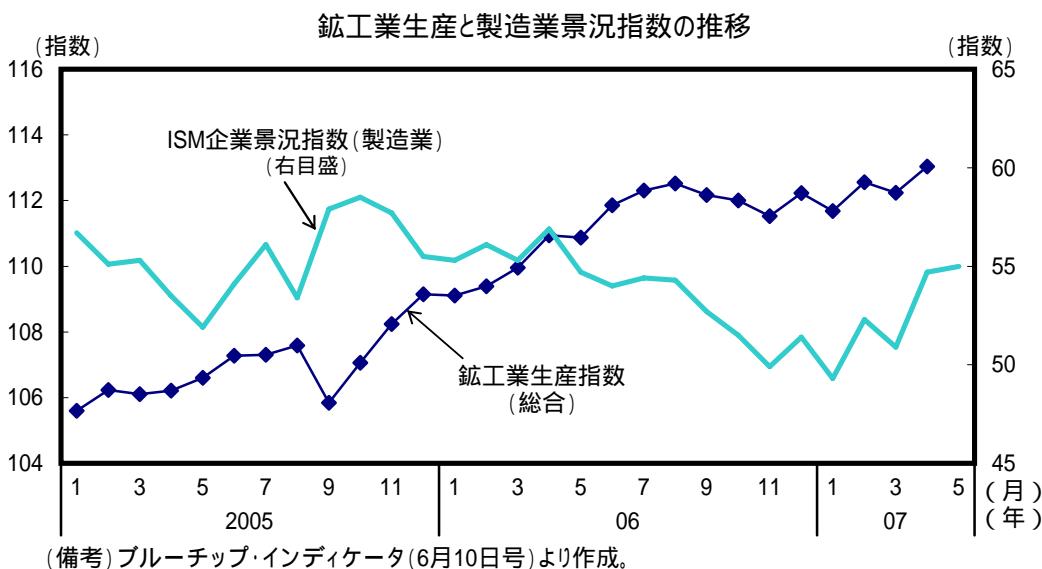
## 海外経済の動向

2007年の世界経済は、06年をやや下回る成長が見込まれる（アメリカは下方修正、アジア、ヨーロッパは上方修正）

| 国/地域名 | 2006年<br>(実績) | (前年比、%)         |                |
|-------|---------------|-----------------|----------------|
|       |               | [06年秋]<br>(11月) | [07年春]<br>(今回) |
| アメリカ  | 3.3           | (2.6) ↘         | 2.3            |
| アジア   | 北東アジア         | 8.6             | (7.5) ↗ 7.8    |
|       | うち中国          | 10.7            | (9.3) ↗ 9.7    |
|       | A S E A N     | 5.8             | (5.1) ↗ 5.3    |
| ユーロ圏  | 2.8           | (1.9) ↗         | 2.3            |

(備考) 実績値は各国統計、予測値は民間機関の見通しの平均値による。

アメリカ：生産はおおむね横ばいとなっている



アメリカ：住宅建設は減少している

